PART3　敬意の方向

●「誰から」→敬語の「　　　」確認。

〇地の文＝「　　　」から。

〇会話文＝「　　　」から。

●「誰へ」→敬語の「　　　」確認。

〇尊敬語＝　主体（～　・　）へ

〇謙譲語＝　客体（～　・　）へ

〇丁寧語→敬語の「　　　」確認。

地の文＝「　　　」へ
会話文＝「　　　」へ

★敬語の重なる順番＝

問九　「かの人（＝玉鬘(たまかづら)）を、いとめでたし劣らじと見たてまつりしかど、…」の波線部は誰に対する敬意か、答えよ。

問十　次のa・bは誰に対する敬意を表しているか答えよ。

「蔵人の少将が、まづ召す(a)」と言ふめれば、…

（蔵人の少将が）三の君に「これ（＝手紙）見給へ。惟成が落としたりつるぞ」とて奉り(b)給ふ。

a＝　　　　　　b＝

問十一　傍線部の説明として最も適当なものを次の中から選べ。

世の中もひさしく見てはべれば、昔より移りまかる道理もあはれにおぼえて、神の御代は知らず、人代となりて神武天皇の御後、百王と聞ゆる、…（以下略）

1　神への敬意を表す謙譲語　　2　神への敬意を表す丁寧語
3　神武天皇への敬意を表す謙譲語　　4　神武天皇への敬意を表す丁寧語
5　読者への敬意を表す謙譲語　　6　読者への敬意を表す丁寧語

問十二　左の文は、「奏せよ」について説明したものである。空欄[Ⅰ]〜[Ⅲ]に入れるのに適当な語を、次の語群から選べ。

「奏せよ」はサ変動詞「奏す」の[Ⅰ]で、「奏す」は「言ふ」の[Ⅱ]である。またこの語は[Ⅲ]または上皇・法皇に対する敬意を表す語である。

Ⅰ　ア　終止形　　イ　已然形　　ウ　命令形
Ⅱ　ア　尊敬語　　イ　謙譲語　　ウ　丁寧語
Ⅲ　ア　天皇　　イ　皇后　　ウ　皇太子

〈Memo〉

第19講　PART3　確認問題

①　傍線部の説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

むかし、水無瀬(みなせ)にかよひ給ひし惟喬(これたか)の親王(みこ)、例の狩しにおはします供に、馬の頭(かみ)なる翁(おきな)つかうまつれり。

ア　惟喬の親王への敬意を表す尊敬語　　イ　翁への敬意を表す尊敬語
ウ　惟喬の親王への敬意を表す謙譲語　　エ　翁への敬意を表す謙譲語

②　傍線部は誰から誰に対する敬意を表しているか。最も適当なものを、次の中から選べ。

※相人、(明雲座主(めいうんざす)に)「まことにその相おはします。」と申す。

※相人…人相見

ア　相人から明雲座主に対する敬意　　イ　相人から読者に対する敬意
ウ　作者から明雲座主に対する敬意　　エ　作者から読者に対する敬意

③　傍線部ア〜エの中には、敬意の方向が他と異なるものが一つ含まれている。その語として最も適当なものを、次の中から選べ。

薩摩守（さつまのかみ）（＝忠度（ただのり））馬よりおり、みづから高らかに（三位殿に）のたまひける（ア）は、「別（べち）の子細候（イ）はず、三位殿に申す（ウ）べき事あつて、忠度が帰り参つて候。門を開かれずとも、このきはまで立ち寄らせたまへ（エ）。」と、…

④　傍線部の説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

さりとてあるべきならねば、（伊周（これちか）は道長のもとへ）参り給へり。

ア　「参り」は伊周への敬意を表す尊敬語、「給へ」は道長への敬意を表す謙譲語である。
イ　「参り」は道長への敬意を表す謙譲語、「給へ」は伊周への敬意を表す尊敬語である。
ウ　「参り」は伊周への敬意を表す丁寧語、「給へ」は道長への敬意を表す尊敬語である。
エ　「参り」は道長への敬意を表す謙譲語、「給へ」は読み手への敬意を表す丁寧語である。

⑤ 傍線部の説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

（中宮が）「さて、なにごとぞ」とのたまはすれば、（生昌（なりまさ）が）申しつることを、さなむと啓すれば、…

ア 「言ふ」の尊敬語で、作者から中宮に対する敬意を表す。

イ 「言ふ」の尊敬語で、生昌から中宮に対する敬意を表す。

ウ 「言ふ」の謙譲語で、作者から中宮に対する敬意を表す。

エ 「言ふ」の謙譲語で、生昌から中宮に対する敬意を表す。

第19講　ＰＡＲＴ３　解答

問九　玉鬘

問十　ａ　蔵人の少将　　ｂ　三の君

問十一　６

問十二　Ⅰ　ウ　　Ⅱ　イ　　Ⅲ　ア

第19講　PART3　確認問題　解答

〔解説〕

① 「つかうまつる」は謙譲語で、「お仕えする」という訳。謙譲語は客体（〜を・に）に対する敬語なので、惟喬の親王への敬意を表す。よって、ウが正解。

② 会話文中で用いられているので、話し手（＝相人）からの敬意。「おはします」は尊敬の本動詞。尊敬語は主体（〜は・が）に対する敬語なので、明雲座主への敬意を表す。よって、アが正解。

③ アは尊敬語。主体である薩摩守（＝忠度）を敬う。イは丁寧語。会話文中で用いられているので、聞き手（＝三位殿）を敬う。ウは謙譲語。客体である三位殿を敬う。エは尊敬語。主体である三位殿を敬う。よって、アが正解。

④ 「参る」は謙譲語。謙譲語は客体（〜を・に）に対する敬語なので、道長への敬意を表す。「給ふ」は尊敬の補助動詞。尊敬語は主体（〜は・が）に対する敬語なので、伊周への敬意を表す。よって、イが正解。

⑤ 「啓す」は「言ふ」の謙譲語で「申し上げる」。地の文で用いられているので、作者からの敬意。「啓す」は言う相手は必ず「中宮・東宮」の誰かである。ここでは中宮を敬う。よって、ウが正解。

〔解答〕

① ウ　② ア　③ ア　④ イ　⑤ ウ